研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-139		17-066	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Prevalence of chronic musculoskeletal conditions and associated factors in Brazilian adults - National Health Survey.

ブラジル人成人における慢性筋骨格系疾患の有病率および関連因子-国民健康調査より

執筆者

Alonso Monteiro Bezerra M, Hellwig N, da Rocha Castelar Pinheiro G, Souza Lopes C.

掲載誌

BMC Public Health. 2018 Feb 27;18(1):287. doi: 10.1186/s12889-018-5192-4.

キーワード	PMID
筋骨格疾患、危険因子、有病率	29482524

要　旨

目的：

慢性非感染性疾患はブラジルをはじめ世界中の医療制度に大きな影響を及ぼす。慢性筋骨格系疾患はその中で最も頻度の高いものの一つで、身体活動・生活の質（QOL）・機能的能力に影響する一連の疾患群である。ブラジルではこの疾患の実態を調査した疫学研究は少ない。本研究は慢性筋骨格系疾患の有病率、また人口統計学的、社会経済的、行動的および臨床的因子との関連性を推定する。

方法：

ブラジルにおいて 2013 年に全国の世帯成人 60,202 人を調査した国民健康調査（Pesquisa Nacional deSaúde）のデータを用いた横断研究。慢性筋骨格系疾患は、自己申告で関節炎、間接リウマチおよび脊髄障害の診断を受けたものとした。各変数は、階層的決定モデルを用いて分析した。筋骨格系疾患の有病率は、ブラジルおよびその 5 つの地域についてそれぞれ 95%信頼区間(CI)とともに算出した。頑健分散によるポアソン回帰を用いて有病率比（PR）を算出した。

結果：

評価対象となった 60,202 人のうち 21.6%が筋骨格疾患を有しており、次の因子を有する者の有病率が高かった：女性、高齢、先住民、同居有、低学歴、無職、ブラジル南部在住、農村部在住、毎日喫煙、安静、肥満、非飲酒、抑うつ症状、3 つ以上の慢性疾患。多変量解析では、高齢（PR = 3.61; 95%CI 3.27-3.98）、うつ症状（PR = 1.69; 95%CI 1.57-1.81）および複数の併存症（PR = 1.94; 95%CI 1.77-2.12）との強い関連が確認された。

結論：

ブラジルの成人における筋骨格疾患の有病率は高かった。加齢や慢性疾患は確実に進行するため、本研究結果からは、慢性筋骨格疾患を患う人への予防・治療・リハビリに向けた政策の重要性が示唆された。